

# 総合評価落札方式における 自己採点方式の試行について



広島高速道路公社

企画調査部 技術管理課 山口 純

## 発表の流れ

- 1 広島高速道路公社の概要
- 2 総合評価の現状
- 3 自己採点方式について
- 4 自己採点方式のまとめ
- 5 アンケート調査
- 6 課題



H24年フォトコンテスト 理事長賞作品 宇品大橋

# 1 広島高速道路公社の概要

## (1) 公社の概要

### 1 公社設立

平成9年6月に指定都市高速道路として、  
広島県と広島市の共同出資により設立

### 2 路線

広島高速1号～5号

### 3 開通延長

22.1km

### 4 交通量

平成24年度の平均交通量は約5万5千台/日



H24年フォトコンテスト 金賞作品  
仁保ジャンクション



広島高速道路公社

3



# 1 広島高速道路公社の概要

## (2) 開通区間と整備区間

- ・現在の開通区間は**22.1km**
- ・現在の整備区間は、高速3号線Ⅲ期（吉島～観音間）2.9km、高速5号線 4.0km



### 開通区間

年月日	区間
H9.10.1	高速1号線 4.2km
H12.3.19	高速3号線 2.6km
H13.10.2	高速4号線 4.9km
H18.10.16	高速1号線 2.3km
H22.4.26	高速2号線 5.9km 高速3号線 2.2km

### 整備区間

区間
高速3号線Ⅲ期(吉島～観音)2.9km
高速5号線(温品JCT～駅北)4.0km



広島高速道路公社

4





# 1 広島高速道路公社の概要

## (3)各路線の事業内容 (広島高速3号線)

高速3号線は、広島都市圏における東西方向の軸となる路線  
Ⅲ期区間(吉島～観音間 2.9km)は**平成25年度末に開通予定**



本川渡河部



天満川渡河部

5



広島高速道路公社



# 1 広島高速道路公社の概要

## (4)各路線の事業内容 (広島高速5号線)

高速5号線は、高速1号線と接続して山陽自動車道 広島東ICと広島駅北口を直結し、都心部から広島空港へのアクセス強化を図るとともに、温品・中山地区の交通混雑を緩和する**延長4.0 km**の路線である



撮影：H22.10

6



広島高速道路公社



## 2 総合評価の現状

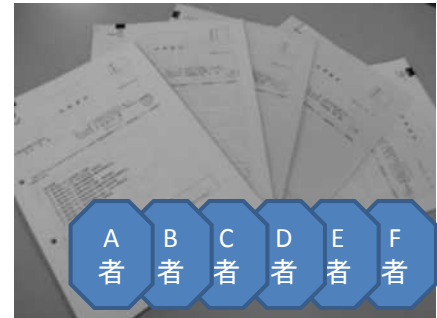
### (1) 審査に係る時間・労力

#### 1 技術資料の審査時間

- ・ 技術提案の審査（技術提案書）
- ・ 施工実績の確認（コリンズ、テクリス等）
- ・ 成績点の確認（成績評定通知書等）
- ・ 技術者の資格の確認（資格者証等）



#### 2 入札者の数が多ければさらに. . .



## 2 総合評価の現状

### (2) 人員不足

発注者の人員不足等により、総合評価の普及が進まない

市町村の総合評価は、人員・人材不足などを理由に、普及が進んでいない

2008年度	43.3%
2009年度	50.2%
2010年度	43.8%
2011年度	36.9%
2012年度	30.0%
3年連続の減少	

2011年度に比べ実施した市町村が6.9%減っている

市町村の総合評価は、人員・人材不足などを理由に、普及が進んでいない。「公共工事の品質確保に関する連絡協議会」がまとめた18年度アクションプランでは、国・県が連携して、導入に必要な支援を行うことが必要とされている。

県別では、**〇**が11年度実績を上回り、**△**が同数、そのほかの**●**県が下回った。これまでの推移を見ると、08年度が43.3%、09年度が50.2%、10年度が43.8%、11年度が36.9%となり、09年度をピークに3年連続の減少となった。

総合評価実施市町村  
**30%の70自治体**  
13.4.17  
建設通信新聞

2年度に総合評価落札方式を実施した宮内市町村数(見込)は、2011年度に比べて6.9%減っている。



## 2 総合評価の現状

### (3) 審査間違い

発注者が行う審査に間違いがあり、再入札になった事例も. . .

当初の落札者が変更となる  
工事が2件発生、契約締結前  
の1件は再入札することに

システムに入力すべき工事  
成績が一部未入力のため、評  
価に反映されていなかった

12.10.30  
建設通信新聞

### 総合評価データ未入力 357件に影響、1件再入札

建設関連業務委託に関する  
落札方式適用の一般競争入札  
で、入力すべき工事成績が一  
部未入力のため評価に反映さ  
れていなかったことが分かっ  
た。入札参加者からの指摘を  
受け、2012年度（9月末  
時点）における建設工事の影  
響を調査した結果、影響が及  
ぶ総合評価方式の入札件数は  
357件あり、このうち当初  
の落札者が変更となる工事が  
2件発生、契約締結前の1件  
は再入札することにした。

建設関連業務委託に関する  
業務成績の一部でも建設事務  
システムに未入力があったた  
め、12年度の業務で影響が及  
ぶ総合評価入札案件73件を精  
査したが、当初落札者が変更  
となる案件はなかった。

10年度から建設関連業務委託  
の入札で総合評価方式を導  
入。工事は05年度から、業務  
は12年度から、入札に関する  
電算システム（建設事務総合  
システム）に入力されている

過去3年度の工事・業務成績  
の平均値を入札時に評価対象  
としている。  
しかし、12年8月に実施し  
た建設工事の総合評価一般競  
争入札の結果を公表したとこ  
ろ、入札参加者から過去の工  
事成績の一部が反映されてい  
ないのではないかとこの申し出  
があり、調査した結果、入力  
すべき工事成績が一部未入力  
で評価に反映されていないこ  
とが判明した。

9



## 3 自己採点方式について

### (1) 自己採点とは

総合評価の評価項目のうち、企業（技術者）の施工実績、成績点、資格など客観的に評価を行うことが可能な項目について、入札者が自ら採点を行い技術資料と併せて提出を行う

発注者は、自己採点の得点とその他の評価項目の得点を足し合わせた技術評価点及び入札価格により算出された評価値が最も高い者のみ、評価基準に基づき自己採点の審査を行う

評価項目（業務委託の例）	自己採点の有無
<b>1 企業の能力</b>	
過去3年間の業務成績評定の平均点	○
業務実施及び照査体制	○
業務実施場所	○
<b>2 管理技術者の能力</b>	
保有資格	○
継続教育（CPD）の取組み	○
過去5年間の同種業務の実績	○
過去3年間の業務成績評定の平均点	○
手持ち業務件数	○
<b>3 担当技術者の能力</b>	
保有資格	○
継続教育（CPD）の取組み	○
手持ち業務件数	○
<b>4 実施方針</b>	
業務理解度	—
実施手順及び工程計画	—

自己採点項目

客観的に評価が行える項目について、入札者が自ら採点を行い技術資料と併せて提出

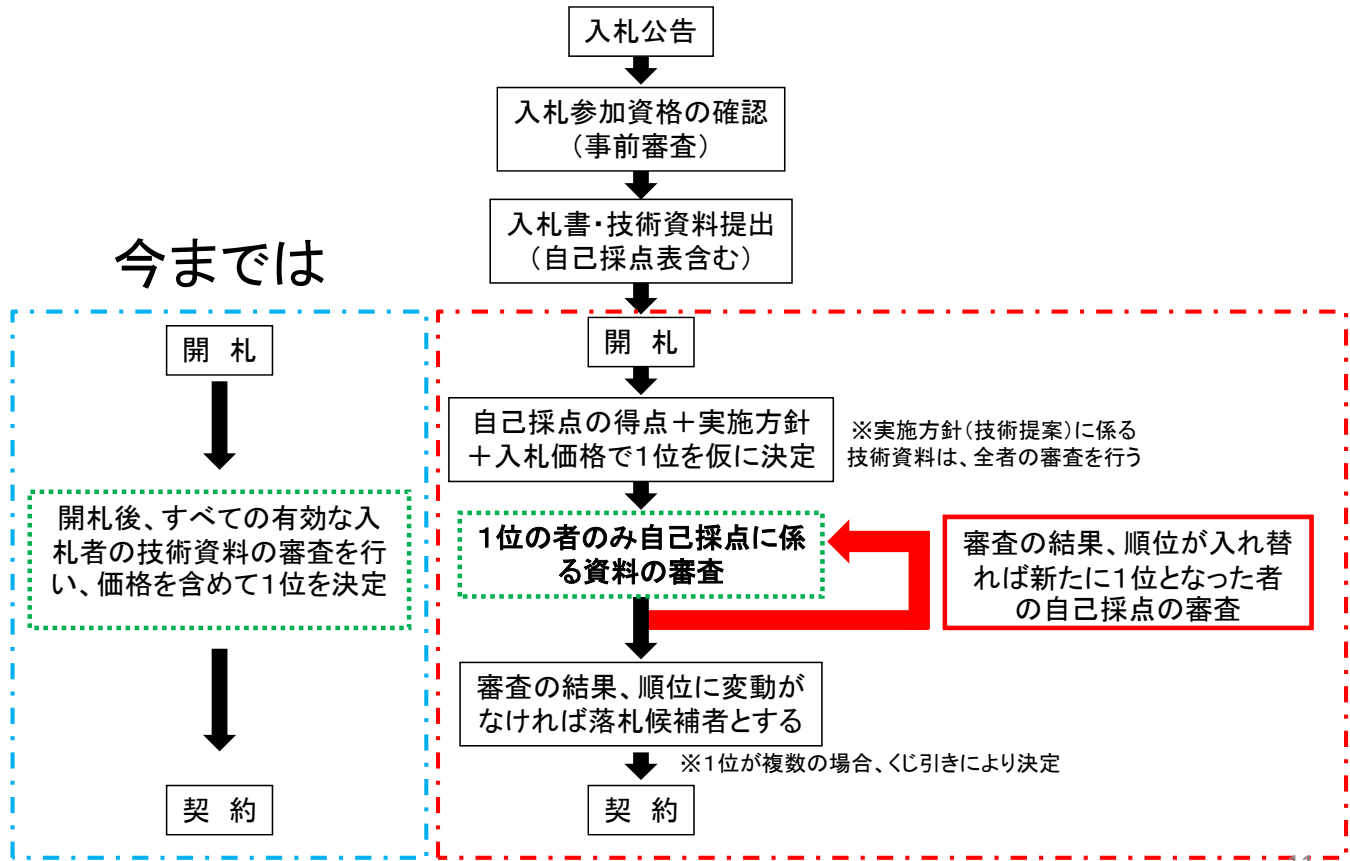
実施方針は発注者の技術的な判断が必要なため全入札者を審査

10



### 3 自己採点方式について

#### (2)自己採点の流れ1



### 3 自己採点方式について

#### (3)自己採点の流れ2

自己採点に係る評価項目は入札者の採点表の得点を入力

実施方針の評価は、有効な入札者全者の提出された技術資料について審査

No.	業者名	1 企業の能力			2 管理技術者の能力				3 担当技術者の能力			4 実施方針		技術評価点		価格評価点		評価値 (a)+(b)	順位
		業務成績平均	実施・照査体制	保有資格	継続教育 (CPD)	同種業務等実績	業務成績	手持業務予定件数	保有資格	継続教育 (CPD)	手持業務予定件数	業務理解度		評価点 (a)	入札価格 (税抜, 千円)	評価点 (b)			
												課題 I	課題 II						
	配点	(5.0) 点	(3.0) 点	(2.0) 点	(2.0) 点	(6.0) 点	(6.0) 点	(3.0) 点	(2.0) 点	(2.0) 点	(3.0) 点	(8.0) 点	(8.0) 点	(50.0)		(40.0) 点	(90.0) 点		
1	A者	0.0 点	1.5 点	0.0 点	0.6 点	3.0 点	5.8 点	2.0 点	2.0 点	0.0 点	3.0 点	0.0 点	0.0 点	17.9	4	4,900	21.3 点	39.2 点	4
2	B者	5.0 点	3.0 点	2.0 点	1.0 点	6.0 点	4.8 点	0.0 点	2.0 点	0.0 点	0.0 点	8.0 点	8.0 点	39.8	2	8,600	7.1 点	46.9 点	3
3	C者	5.0 点	3.0 点	2.0 点	2.0 点	6.0 点	5.0 点	2.0 点	1.0 点	2.0 点	2.0 点	6.0 点	6.0 点	42.0	1	8,350	8.1 点	50.1 点	2
4	D者	5.0 点	3.0 点	2.0 点	0.0 点	6.0 点	4.2 点	0.0 点	2.0 点	0.5 点	0.0 点	8.0 点	6.0 点	36.7	3	6,000	17.1 点	53.8 点	1

自己採点+実施方針+価格点を合わせ、評価値が1位の者の自己採点に係る評価項目の審査を行う

自己採点の審査の結果、順位に変動がなければ落札候補者とする

### 3 自己採点方式について

#### (4)自己採点の審査方法

##### 過大な自己採点の場合

区分	評価項目		評価基準	配点	得点 (自己採点)	発注者の 評価
2 管理技術者の能力	技術者 資格	保有資格	技術士 ○○部門を有する	2.0	2.0	1.0 ←発注者の審査
			RCCM ○○を有する	1.0		↓
			上記以外	0.0		0.0 ←最終評価

入札者の自己採点 「2.0点」

発注者の評価 「1.0点」

最終評価 「0.0点」

入札者の自己採点より発注者の審査の評価が低い場合は「0点」とする



### 3 自己採点方式について

#### (5)自己採点の審査方法

##### 過小な自己採点の場合

区分	評価項目		評価基準	配点	得点 (自己採点)	発注者の 評価
2 管理技術者の能力	技術者 資格	保有資格	技術士 ○○部門を有する	2.0	1.0	2.0 ←発注者の審査
			RCCM ○○を有する	1.0		↓
			上記以外	0.0		1.0 ←最終評価

入札者の自己採点 「1.0点」

発注者の評価 「2.0点」

最終評価 「1.0点」

入札者の自己採点より発注者の審査の評価が高い場合は自己採点を上限とする



## 4 自己採点方式のまとめ

### 1 発注者の審査業務の軽減

入札者が多くても、自己採点に係る審査は1位の者のみとなるため、審査業務が軽減

### 2 審査期間の短縮

1位の者のみ審査を行うため、審査期間が短縮 = 入札者のメリットとして、技術者の拘束期間が減る（受発注者双方にメリットあり）

### 3 評価ミスの防止

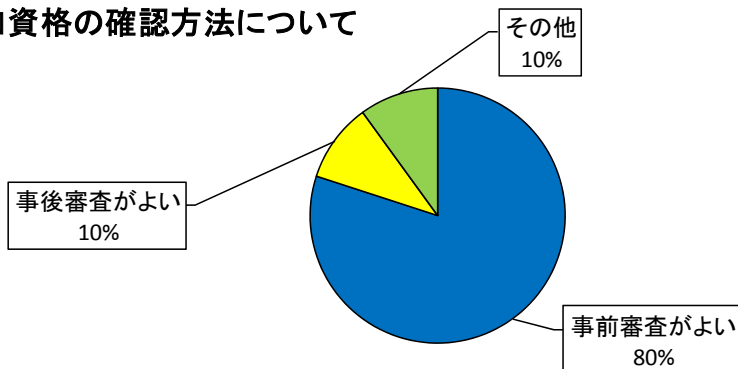
自己採点をもとに審査を行うため、評価ミスが起きにくい



## 5 入札者へのアンケート調査

### (1) アンケート結果(1/3)

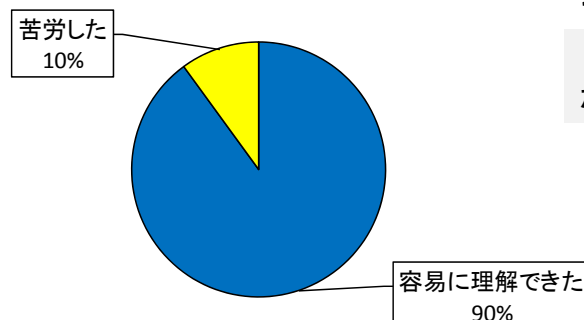
#### ①入札参加資格の確認方法について



#### 事前審査が良い意見として

事前に入札参加資格の確認を行い、技術資料の作成や積算を行いたいため

#### ②公告文等での自己採点方式の理解度



#### 容易に理解できた意見として

公告、入札説明書等へ記載があったため、理解できた

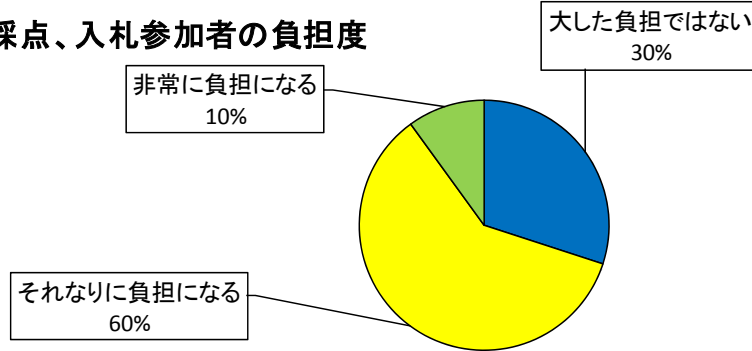




## 5 入札者へのアンケート調査

### (2)アンケート結果(2/3)

#### ③自己採点、入札参加者の負担度



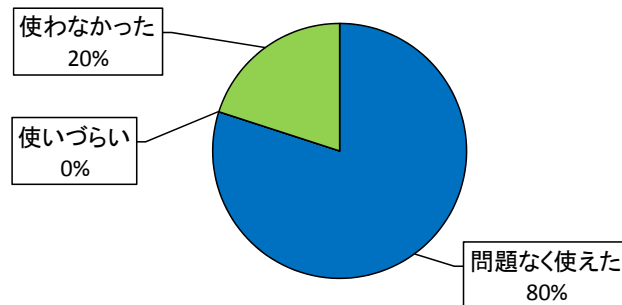
#### 負担ではない意見として

総合評価の場合、事前に社内で採点を行い資料提出を行っているため負担ではない

#### 負担になる意見として

評価に間違いがあった場合の入札者側のリスクが大きい

#### ④自己採点支援シート(Excel)について



#### 使わなかった意見として

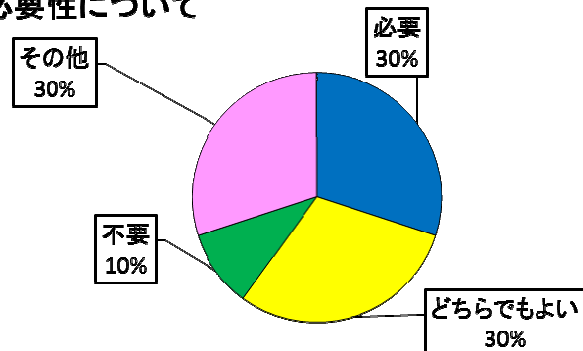
支援シートの存在に気が付かなかったため



## 5 入札者へのアンケート調査

### (3)アンケート結果(3/3)

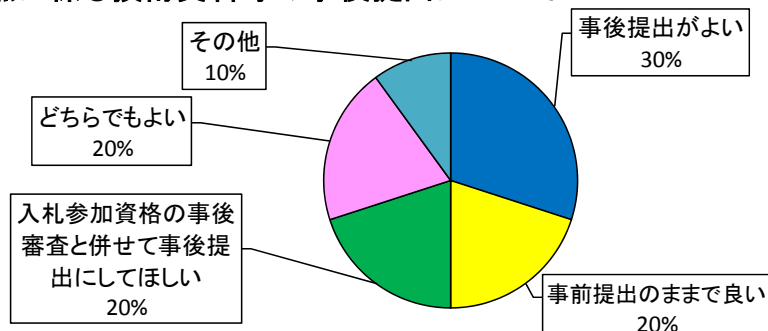
#### ⑤自己採点方式の必要性について



#### 必要との意見として

落札決定までの期間が短くなるのであれば必要

#### ⑥自己採点に係る技術資料等の事後提出について



#### 事後提出が良い意見

落札候補者とならなかった場合、書類作成が不要となるので、事後提出がよい

#### 事前提出が良い意見

事後提出により落札決定までの期間が延びるのであれば、事前に提出する方がよい



## 6 課題

### 1 採点方法

入札者の採点が発注者の採点より過大だった場合、「0点」とする採点方法について、アンケート結果では、厳しいとの意見も

### 2 技術資料の事後提出の検討

自己採点に係る資料について、1位のみ後日提出を求める事後提出に変更し、入札者の資料作成にかかる負担を軽減（ただし、落札決定までの期間が長くなる）

### 3 入札者への周知

事例の少ない取組みのため、自己採点方式について入札者への周知が必要



ご清聴ありがとうございました



H24年フォトコンテスト 金賞作品 仁保ジャンクション

